

〈移行対応表〉

配慮が必要な 学年	4 年	6 年	6 年	6 年
配慮が必要な 学習内容	ことわざ・故事成語	漢字の成り立ち	世代による言葉の違いについて	時代による言葉の変化について
関連する 指導事項	知・技(3)イ	知・技(3)ウ	知・技(3)ウ	知・技(3)ウ

令和２年度版 学校図書で 対応していた 教材	４下P20「ことわざ・故事成語」	６上P36「漢字の成り立ち」	６年下P94「言葉は変わる」	６年下P94「言葉は変わる」
令和６年度版 光村図書で 対応している 教材	３下P56「ことわざ・故事成語」	５年P42「漢字の成り立ち」	５年P146「和語・漢語・外来語」	５年P144「浦島太郎」



新４年生で対応



新６年生で対応



新６年生で対応



新６年生で対応

指導可能な 教材	４下P60「慣用句」 児童は令和２年度版学校図書３年で「慣用句」の学習を行っているため、ここでは復習として慣用句の定義を押さえるにとどめ、移行措置資料としてご用意した学習材を用いて、「ことわざ・故事成語」の指導を行っていただきたい。	６年P44「漢字の形と音・意味」 漢字の部分と音の関係を扱う際に、漢字の成り立ちの種類についても扱うことが可能である。	６年P48「聞いて、考えを深めよう」 自分たちとは違う世代にインタビューする機会を捉えて、世代によって言葉の使い方や捉え方が異なることを確認することが可能である。	６年P72「天地の文」 近代の文語調の文章を読むことを通して、自分たちが普段使っている言葉とは、異なる言葉があることに気づくことが可能である。
指導の際の ポイント	※移行措置資料としてご用意した学習材「ことわざ・故事成語」をコピーして配布し、「ことわざ」「故事成語」それぞれの定義を確認するとともに、幾つかの言葉について意味を調べたり、それを使った文作りなどを行ったりさせるとよい。	※必要に応じて、５年P42「漢字の成り立ち」をコピーして配布するなどし、漢字の成り立ちには大きく分けて四つのものがあること、その中でも形声文字に当たるものが最も多いことに触れるとよい。	※６年P48「問いをもとう」を基に、異なる立場や年齢の人の話を聞くときの違いを出し合う中で、世代によって使う言葉に違いがある場合があることに、具体例を挙げながら触れておくとよい。	※「天地の文」を音読する中で、現代では使わない言葉や異なる言い回しを見つけて、出し合わせるとよい。６年P276「言葉の交流」を参考に、外国の言葉を日本語の中に取り入れてきた言葉の変遷に触れてもよい。